

志鎌 猛 Takeshi Shikama

1948年、東京生まれ。2002年、デザインの世界を経て写真家に転じる。日本各地の深い森に大判カメラを担いで分け入り、目に見えている風景の、その奥にある目に見えない世界を写真に焼き付けたいと取り組む。

2007年、写真集『森の襲 - *Silent Respiration of Forests*』を出版。写真家としての原点となるこのプロジェクトには、ライフワークとして向き合い続けることとなるが、森を彷徨うあいだに、足許で朽ちようとしている草花や、流れていく水や、木の影や、あゆる生命の一瞬を捉える眼差しが磨かれていき、レンズを向ける自然の領域が広がる。カメラを動作性の良いハッセルブラッドに持ち変え着手した『うつろい - *Evanescence*』は、森、野、蓮、庭園、ランドスケープの5部作として展開。

森への思いが募るにつれ、見知らぬ地での未知の気配との邂逅を求め、日本国内からアメリカ、及びヨーロッパ各地へと旅を重ね、ヨセミテとパシフィック・ノースウエストへの旅から生まれた作品が、「森の襲 - *Silent Respiration of Forests*」シリーズに加わる。その一方で、大都市の人工的に作られた自然への凝視も像を結び、『都市の森 Urban Forest-セントラル・パーク、リュクサンブール公園、パリ、ミラノ、バルセロナ、香港、プラハ』の連作につながる。

また、「じっと見る。そして、一度だけシャッターをきる」という一貫してきた姿勢は、『観照 *Contemplation*』シリーズに昇華。オランダ、古代の石、スカイ島、イギリス、ガリシア、フランス、ドロミテ、京都、伊勢、湯川溪谷、香港、台湾、ドイツ、アイルランド、奈良、日本、16の連作として継続し、もうひとつのライフワークとなる。

旅の中から着想した作品はほかにも多く、『美の谷 - *Vallery of Beauty*』はスペイン・ガリシアとイタリア・カタルーニャなどのへ訪問から、『秘密の庭園 - *Il Giardino Segreto*』は、ドイツ・ベルリンとイタリア・ボマルツォへの訪問から生まれた。そして、世界各地の植物園や自然史博物館や剥製店、森で拾った木の実や河原の石などを折あるごとに撮りためるうち、現代のノアの方舟にも通じる思いを抱くようになる。『記憶の庭園 *Garden of memory* - 動物、植物、種子、石』の4部作は、未来の世代に引き継ぎたい自然の肖像写真として制作した。

最新作『追憶 *Reminiscence*』は、人生の中で何度訪れても同じ場所で足が止まる、目が惹きつけられる、そういう自分と響き合い記憶に刷り込まれた風景があることに気づき、2019年秋から着手した。プラチナプリントに心象風景としての表現を試みている。

作品は日本国内のみならず、ヨーロッパ、アメリカ、香港、台湾などにて国際的に展示され、世界各地の美術館など公的機関、及び個人に、数多くコレクションされている。